

園長だより

第九号一九九九年三月
竹鼻保育園
園長 川出昭順

褒め方 叱り方

私には現在四人の孫がいます。先日、娘と二人の孫が来て一晩泊まっていったのですが、孫の様子を見ているととんでもないことをしていました。兄は三歳半、弟は一歳と八ヶ月です。ウルトラマンとか何とか言つて、よちよち歩きの弟に蹴りを入れ、頭を叩くやら、もう無茶苦茶です。たまのことでしたから、びつくりして兄ちゃんを諫めたのですが、皆さんのお宅ではこんなこと当たり前前でしょうか。皆さんのご苦労が偲ばれます。

もの本を見ていると、「子どもを伸ばす褒め方叱り方」という欄がありました。マニュアルどおりにいけばいいのですが、そうはいかないも



可愛いですね。1月28日未満児生活発表会、うさぎ組だよりから頂きました。

のです。お母さん自身が仕事、育児に追い回されて、余裕がありません。イライラして当たり前です。また、お父さんの理解がないと余計に神経をすり減らします。中にはこれらを上手にやっているお母さんもいますが、ほとんどの場合、反省が多いものです。そんなに器用に出るものではありません。お母さんになってまだ十年もたつていません。おばあちゃんぐらいになると、こんな時はこうしたらいいという経験がものをいいます。時間がかかるものです。何でもそうなんです。上手にやろうというのはうまくいかないことが多いものです。無我夢中で済んでいきます。むしろ上手にやろう、賢くやろうという方に問題が多いのでないでしょうか。

私はお寺の住職です。いろいろなお宅を伺わせでもらっています。その中で、あるお宅を紹介させてもらいます。ご夫婦と男の子二人の家族です。今は二人とも大きくなり就職し働いています。お子さんが中学の頃から、特に下の子がグレはじめ、よくない友達と関わるようになり、学校からも何度も呼び出されてご両親、特別にお母さんが精神的にまいってしまっただけでした。常飯(月々のお参り)にお邪魔すると、お母さんは眉間に深いしわをよせ、また学校へ呼び出されてしまったことを語り、どうしたらいいのかを尋ねられることがたびたびありました。私としてもこうするといよいよという名案があるわけではなく、ただお話を聞いて、大変ですねと言うだけでした。そのシワがどんどん深くなってくるので、私は二つだけ提案しました。一つは息子さんと話をすると、困り切つて話さなくてはならないことは十分分かるが、本人としては、どうしてよくない仲間に入っていくかという、学校が面白くない、友達がいない、

いろいろ原因があつてのことでしょう。本人も悩み苦しんでいることを少し理解して、そのシワを伸ばして話をしたらどうか。お母さんがそんな深いシワで話をするのはよくない。もう一つは、特別にいうことではないかも知れないが、夫婦家族が協力してこの子に接していく。家族の姿は子どもの手本である、そのことを心に刻み、接していくことが大事である。こんなことを言った事を覚えていきます。

保育園に勤めだしてそのお宅へいく機会がほとんど無くなつてしまいました。三年ぶりぐらいで先日行きました。私自身ずーっとそのことが頭を離れずに行きましたので、どうなつていいのか聞きました。すると、高校を中退してどうなつてしまふかと心配したが、今はきしつと仕事をしいる。以前のような心配はなくなり、落ち着いて働いているということでした。よかつたねーと連発しました。

人生いろいろの事があります。厄介なこと、心配なこととも当然あります。そんなことから逃げないで、お母さんの真正面から受け止めがあつたので、立ち直つたのでしよう。子どもの健やかな成長を願っているのは、お母さんお父さん、家族です。上手に育てていたらこんなことにならなかつたと思いがちですが、七十近くなつた今思うと、そうではないように思います。どこの家族でも、ぎりぎりの切羽詰まつたときがあります。そのことを真正面から受け止めていくことがすべてのように思ひます。上手下手などありません。ただ「子どもを伸ばす褒め方 叱り方」という本が巷にはいろいろあります。褒め方の通りにはいきませんし、またその通りにする必要も

無いと思います。ただ、叱るときは深呼吸をして5、6秒たつたら叱りなさいと。短気を起こさず、ゆつたりと構えていくことが大事とありました、成る程、しかしそれが出来ない。

話は仏教のことになるのですが、親鸞聖人の教えは「念仏申せば仏（覚者目覚めた人）になる」というものです。阿弥陀様のお力によつて救われるという教えです。南無阿弥陀仏というお念仏を申すと言うことは、阿弥陀様が私に働きかけていてくださる、そのお働きに気づいたとき、私は抛り所としていたエゴの自分が崩れ、阿弥陀様を抛り所とする私に生きる方向が変わると親鸞聖人は教へてくださいます。このような生き様をするのが真宗門徒です。そのように生き、有名なのが近江商人です。近江商人は財界に大きな影響力を持った人が生まれています。その精神が三方よし「売り手よし、買い手よし、世間よし」というものです。自分さえ儲かつたらいいというのはエゴです。しかし、他の人にも、また社会にも貢献することを常に考えているのは、阿弥陀様の信心をいただいているからです。そこに本当に尊敬される人が誕生します。

近江商人・高島屋、西武グループ、伊藤忠商事、住友財閥、日商岩井、ヤンマー、東レ、ワコール、西川産業、トヨタ、日本生命、武田薬品、ニチレイなどの創始者

褒め上手叱り上手がそれらの人々を育てたわけではありません。三方よしという精神つまり念仏の信心より生まれたのです。子育てにおいても、自分の子だけでなく、他人の子も、社会をも視野に入れるところに、人が育つのでしようね。